

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0372200410		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	グループホーム太陽荘		
所在地	〒028-3614 岩手県紫波郡矢巾町大字又兵衛新田5-28-2 (電話) 019-697-9400		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年10月12日	評価確定日	平成19年12月26日

## 【情報提供票より】(平成19年9月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	25 人
職員数	25 人	常勤	21 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 25 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	無	その他実費負担 円
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(10月12日現在)

利用者人数	19 名	男性	4 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	10 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	65 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(社) 栃内第二病院
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは有限会社快互が有するグループホームのひとつで、3つのユニットで構成し県内で規模は最も大きい。東北本線矢幅駅から徒歩7分のところに位置し、周辺は田園地帯で静かである。ホームは太陽の光を燦爛と受ける恵まれた環境にある。2階のベランダは広くゆったりしており、ここから見える周辺の山々の眺望は素晴らしく落ち着く環境にある。建物の外観全体は、黄色で遠くからでも分かるようになっている。職員は利用者と家族の応援者として明るい雰囲気の中で接しており、また職員も多いことから日常活動に柔軟かつ臨機に対応できる環境にあり、職員も前向きに取り組み利用者に笑顔が見られる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、個人情報の開示関係や地域との交流、利用者の役割・楽しみ支援の改善などであったが、関係規定の整備が図られ、利用者の希望等を把握し、それぞれの得意分野を活かした役割・楽しみの支援をするなど改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットにより取り組み方法に違いはあるもの各ユニットとも全職員が自己評価に意見を出し取り組んでいる。また評価結果で気づいた部分については話し合いをしながら取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。ホームの入居者や活動状況の報告、家族アンケート調査結果の報告、委員からは地域への広報活動を行うよう意見が出されるなど、活発な意見交換が行われている。議事録は公表している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回の「ご家族様へ」という手紙で日々の生活状況、行事参加、通院状況等を報告し、また体調不良や何かの相談事が生じたときは随時電話で連絡している。また利用者家族の感想や職員の対応状況についてアンケート調査を実施し改善取り組みの参考とし、家族からの要望・意見などはミーティング、カンファレンスの中で具体的に取り上げている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町主催の行事(運動会、収穫祭、夏祭り、花火など)に参加したり、近くの保育園園児が作った蓬クッキーを持参しホームを訪れ、それに対し利用者は感謝の手紙を出すなどの交流をしている。なお、地域自治会への加入を打診しているが加入可否の返事を頂いていない状況にある。

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着サービスの概念導入をきっかけに、理念の見直しを行い、住み慣れた地域とのつながりをより深める姿勢を示した独自の理念を「和」(地域、利用者、太陽荘が思いやりや感謝の気持ちを通じて、ひとつの和となることを目指す)をキーワードにつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームが掲げる理念を職員がいつも見て、意識づけするよう各ユニットに掲示するとともに、各会議やミーティングを通じて新たな理念の趣旨を話し合い、共有しあいながら、具体的なケアにそれぞれ活かすように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町主催の行事(運動会、収穫祭、夏祭り、花火など)に参加したり、近くの保育園園児が作った蓬クッキーを持参しホームを訪れ、それに対し利用者は感謝の手紙を出すなどの交流をしている。なお、地域自治会への加入を打診しているが加入可否の返事を頂いていない状況にある。	○	ホーム周辺の地域活動への参加や、地域住民との交流実現は、ホームの災害時やボランティア支援などのきっかけづくりにもなると考えられる。なお、運営推進会議の委員に自治会長をお願いすることも一つの考えである。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットにより取り組み方法に違いはあるものの各ユニットとも全職員が自己評価に意見を出し取り組んでいる。また評価結果で気づいた部分については各ユニットとも話し合いをし取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。ホームの入居者や活動状況の報告、家族アンケート調査結果の報告、委員からは地域への広報活動の取り組みの意見が出され活発な意見交換が行われている。議事録は公表している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の連絡会議に参加し、その機会を利用し入居者に関する相談や施設運営上の相談助言を貰うなどの連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の「ご家族様へ」という手紙で日々の生活状況、行事参加、通院状況等を報告し、また体調不良や何かの相談事が生じたときは随時電話で連絡している。金銭管理は金銭出納帳を整理し、コピーを家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の感想や職員の対応についてアンケート調査を実施し改善の参考とし、要望・意見などはミーティング、カンファレンスの中で具体的に取り上げている。なお、面会時には声がけをし話し合うように努めている。	○	家族会の立ち上げを検討するとともに、様々な行事の機会の集まりを通じて更なる意見交換が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職時は引継ぎを行い、サービスが損なわれることのないよう配慮している。なお、普段から担当ユニット以外の利用者にも接しており利用者のダメージを少なくしている。なお、退職による影響を抑えるため何も話さないユニットもある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上を図るためいろいろな研修に参加させ、またスキルアップする者への研修紹介をしている。看護師や職員を講師として様々なテーマを設定した内部研修も実施している。なお年間計画を立て習熟度、経験年数等に応じた研修受講の確保も一考である。	○	県内で最も規模が大きいホームで、また多くの人材を抱えその動向が注目されているが、人材を育て、より質の高いサービスを提供するためには、研修計画を策定し習熟度、経験年数に応じた計画的な人材育成とその参加実践が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の勉強会や意見交換会等に積極的に参加しサービスの質の向上に努めている。なお、特色として他ホームの運営推進会議と訪問交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からの入居の場合は、自宅を訪問し本人や家族と馴染みになるよう話し合いをし、また病院等からの入居者の場合は、ホームに見学に来ていただき雰囲気を感じ取ってもらい、決定するまで3~4回行き来して、馴染みになるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歌や踊り、料理、折り紙、習字など、特技等を持っている利用者が多くおり、職員は利用者がそれを実践、実行することで日常生活を楽しめるよう支援しているとともに、職員はそれらを通じて利用者から教えてもらう中で、利用者との支えあいや信頼関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らし方の希望、意向について日常の会話や表情、仕草などを通じて把握に努めている。またセンター方式を導入し、希望・意向の情報を蓄積し支援に活かしている。例えば、得意だった包丁とぎや裁縫、庭いじりを「やってみたい」など、できるだけ生活の中で具体的に活かす取り組みをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から聞いた基本情報や、関係者から提供された情報、を参考にスタッフとの話し合いを行いアイデアを生かした介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	歩行レベルの低下など、状況変化が見られたときは期間終了前でも見直しを行っているが、概ね3ヶ月に1回は、評価、観察のうえ、また家族とも話し合いをして見直しをしている。		これまでの取り組み成果として、目の不自由な方、失禁する方、あまり話さない方へのスタッフの様々な工夫による対応の結果、それぞれ改善への兆しが見られたなど、スタッフに喜びと感動を与え、また介護の取り組みへの自信へつなげている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	3ユニット間で協力して行う行事や、通院介助や利用者自身が欲しい買物、理美容院などの外出支援に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診する場合は、職員が通院介助支援しているが、医科大学など遠距離で診療時間が要するときは家族にお願いしている。なお、ホームが対応した受診結果について家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた取り組みは行っていない。なお、必要性は認識しており、「状態が変化することに家族と話し合いを持ち、対応をユニットごとに話し合っている」としている。	○	入居者は時間の経過とともに重度化の方向に進むことが想定され、その場合、医療連携の確立が重要と考える。家族の関心と不安は、重度化した場合のホームの対応のあり方である。それに対しホームはどのように対応するかホームの方針と仕組みづくりの話し合いの検討に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を損ねることのないよう日常の関わりの言葉づかいや、排泄時の言葉がけについては特に注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、買物、散歩、レクリエーションなど、利用者の希望、過ごし方を尊重し、本人のその日のペースに合わせて対応している。しかし、ユニットによっては、結果的に職員の都合に合わせてしまう時もあるとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望メニューを取入れ、食材購入や、調理、加工、後片付け(茶碗洗い、茶碗拭き、テーブル拭き等)は利用者と職員と一緒にやっている。訪問調査当日の昼食は、スタッフも一緒に食事をし、会話を交わしながら楽し雰囲気の中で昼食を頂いた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3~4回は入浴している。入浴拒否の方は仲の良い利用者の声かけや、一緒に入浴してもらうなど、工夫している。なお、買物や通院介助のためスタッフ不足のとき、入浴時間や曜日において希望にそえないときもあるとしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各ユニットにより取り組みに特徴が見られるが、それぞれ利用者が持っている力を活かすよう料理づくりや後片付け、モップかけなど發揮してもらい、それに対する感謝の言葉を伝えるようにしている。またカラオケや踊り、買物、散歩、ドライブなどの楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	健康面など体調を考慮し、できるだけ希望に応じて散歩、ドライブ、買物など支援している。しかし、ホームでは、利用者の機能低下による外出が減り、希望者も少なくなっていることに何らかの対応を考えなければとしている。	○	冬季間は一層外出が少なくなり、運動量も大幅に減少することから、体力の衰えは顕著となり、徐々に重度化の方向に進む可能性が考えられる。健康管理を含めた体力減退防止のための取り組みを期待する。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間での連携で日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施している。施設内での訓練に留まっており、隣り近所にも声をかけているが協力を得られるまでに至っていない。	○	3ユニットで入居者も25人と多いことから、災害対策は非常に大切な取り組みと考えられるため、地域の協力支援の確立や、昼夜を問わない避難訓練の実施など工夫された取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立や食材は、栄養バランスに重点を置いている。また水分の確保は必要量を確保できるよう食事のときと2回のお茶の時間で工夫している。飲み込みの悪い人にはとろみをつけるなどの工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階のユニットはゆったりとした広さで居室と共用スペースが使い易く配慮されている。2階はバルコニーが広く散策したり外の四季の景色を眺めることができる。食堂や玄関には花が飾られ、また職員の顔写真や行事の思い出写真を掲示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れ親しんだ家具を置いたり、位牌を持ってきている方もいる。出窓に花や犬・猫の置物を飾るなどして楽しんでいる。		